

安心野菜づくりに向け最新機器導入



今回導入された質量分析計付きガスクロマトグラフ (GC - MS)

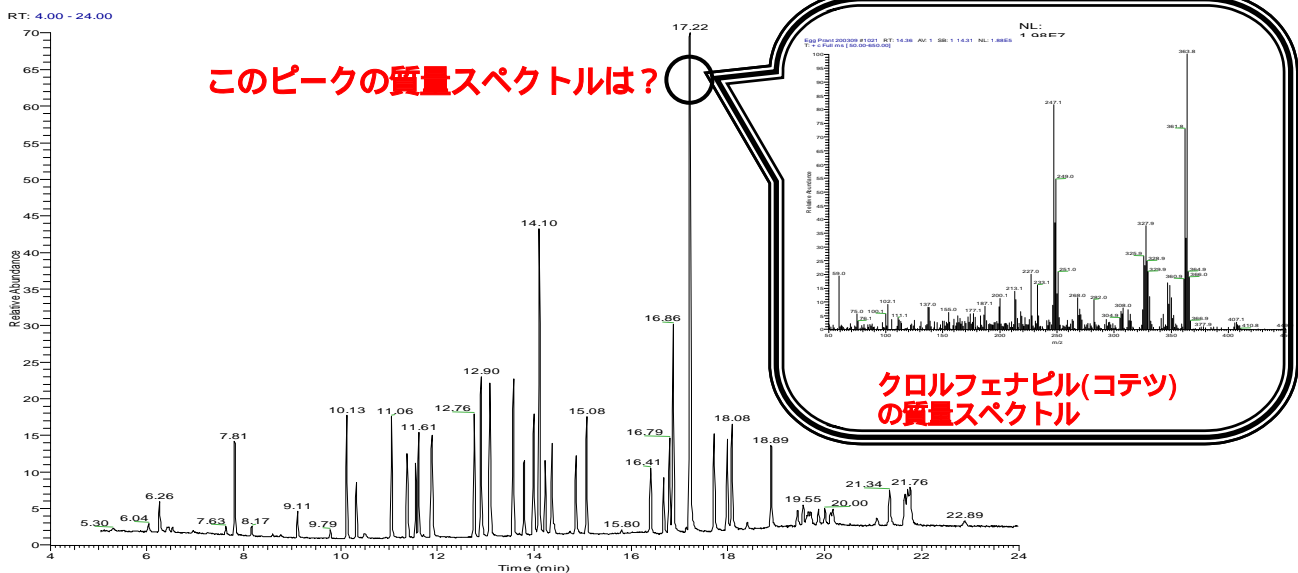


図 39 農薬のトータルイオンクロマトグラム

最近、食の安全性に対する関心の高まりから、農産物の残留農薬検査を行う機会が増えています。

平成15年8月、当センターに最新式の質量分析計付きガスクロマトグラフ (GC-MS、ガスマスともいう) が導入されました。

この機器は農産物中に含まれる不特定多数の農薬を同時に検査でき、従来機に比べ10倍以上の多成分(80~120成分)を高感度で、迅速に分析できるようになり、分析コストも削減されました。

現在、ナスの2,4-Dやニラのプロシミドン (スミレックスの成分) など登録適用外農薬の検査やキュウリ、シシトウなど県産野菜のモニタリング調査に利用されています。

また、農薬だけでなく様々な化合物の同定や定量が可能で、香り成分や機能性食品の成分分析など幅広い活用が期待できます。

(農薬管理科 市原 勝 088-863-4915)